

業績ハイライト

2019年9月中間期の決算

2019年9月中間期(2019年4月1日~2019年9月30日)の当行単体の業績につきまして経常収益は、役務取引等収益が増加したことや、国債等債券売却益が増加したことに伴うその他業務収益の増加があったものの、株式売却益の減少を主因にその他経常収益が減少したこと等から、前年同期比38億5百万円減少の167億41百万円となりました。

経常費用は、国債等債券売却損が減少したことに伴いその他業務費用が減少したことや、営業経費の減少により、前年同期比35億20百万円減少し150億26百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年同期比2億86百万円減少し17億14百万円となりました。

また、中間純利益は、前期特別利益として計上した固定資産処分益の反動減等もあり、前年同期比6億23百万円減少し11億5百万円となりました。

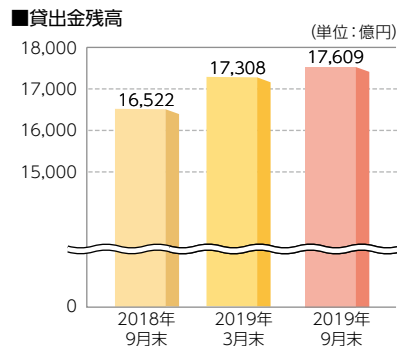
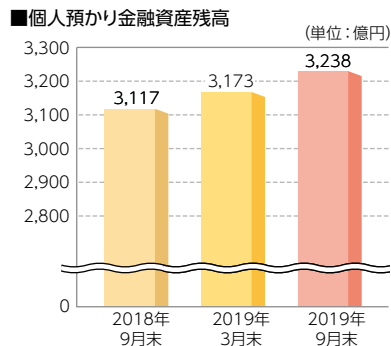
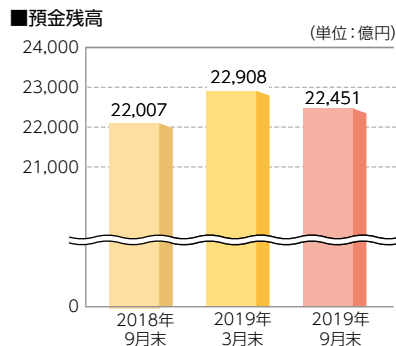
なお、連結経営成績につきましては、連結経常収益で前年同期比37億6百万円減少の205億19百万円、連結経常利益で前年同期比1億66百万円減少の18億27百万円、親会社株主に帰属する中間純利益で前年同期比5億33百万円減少の10億76百万円となりました。

預金・貸出金等の状況

2019年9月末の総預金残高は2兆2451億円となり、前年同期比443億円増加、2019年3月末比457億円減少しました。また、個人預かり金融資産残高は3,238億円となり、前年同期比121億円増加、2019年3月末比64億円増加しました。

2019年9月末の総貸出金残高は1兆7,609億円となり、前年同期比1,087億円増加、2019年3月末比301億円増加しました。

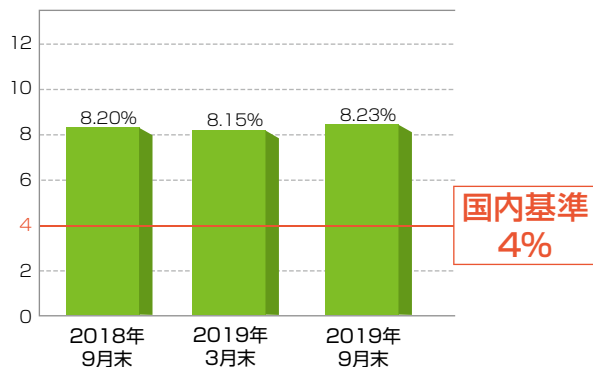
(注)個人預かり金融資産残高は、投資信託、生命保険、公共債の合計であり、外貨預金は含んでおりません。



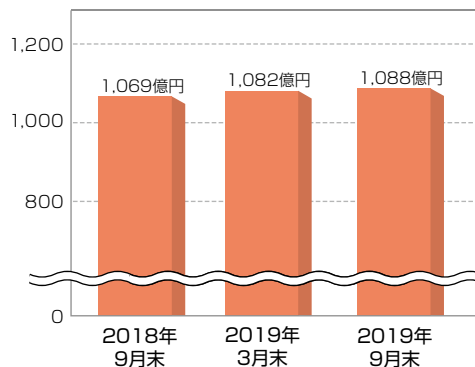
自己資本比率

■ 2019年9月末の自己資本比率(国内基準)は、2019年3月末比0.08%ポイント増加し8.23%となりました。

■自己資本比率(国内基準)



■自己資本額(国内基準)



不良債権の状況

■ 債権総額中に占める金融再生法開示債権(いわゆる不良債権)の比率は、2019年3月末の2.15%が2019年9月末には2.12%となりました。

なお、当行は部分直接償却を行っておりませんが、部分直接償却を行った場合のこの比率をみますと、2019年9月末で1.88%(2019年3月末では1.93%)となっております。

■2019年9月末の不良債権の状況

